

【2024 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
異文化比較論	HLA11-028	選択	1	1.2	前期 (後半)
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
松崎 昇 他	B317	noboru.matsuzaki	火曜日 12:20~14:30		
授業の目的・概要	<p>1. 目的</p> <p>1) 文化は、根源面 (人間レベル) では同一であるが、表層面では、先天的な諸差異、また生まれ育った自然環境や家族等生活集団や共に働く職場集団・業界、さらには民族・国家などによってさまざまに異なりうる。</p> <p>2) 本科目では、主に民族・国家に焦点を当て、諸文化・諸文明の様相について、具体的に比較考察していく。</p> <p>2. 概要</p> <p>1) 初回：授業の概要を説明するとともに、手始めに身の回りの異文化例をグループで考えてみる。</p> <p>2) その後4回：韓国・米国を例に取り上げながら、異文化理解を具体的に広め深めていく。</p> <p>3) 終盤3回：比較文化論・比較文明論を、体系的論理的に考察していく。</p> <p>4) 可能な限り、全体・グループで意見交換を行い、教員からのフィードバックで理解を深めていく。</p> <p>5) 本科目は、異なるバックグラウンドをもつ教員が、オムニバスで教授する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・デベート <input checked="" type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他 ()				
学習上の助言	<p>1. 国内外のさまざまな異文化現象をキャッチできるよう、高感度のアンテナを張っておくこと。</p> <p>2. 授業に意欲的に参加し、異文化現象を自らのこととして受け止め考察すること。</p>				
教科書	使用しない。				
参考書	授業中に適宜紹介する。				
外部教材	特になし。				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	諸文化、諸外国の人々を公平に見ることのできる力を身につける。			HSU (1)、(2)、(5)	
②	異なる文化について学修し、異文化や他者を理解し尊重する力を身につける。			HSU (1)、(2)、(5)	
③	異なる文化の中で暮らす人々を理解し、コミュニケーション力を養う。			HSU (1)、(2)、(4)	
④					
⑤					
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等		授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)	
1	科目の Guidance. 友達とつきあって驚いたこと、出生順や集団や県による違いなど、身の廻りの異文化諸状況を取り上げ、グループに分かれ議論し発表する。	[担当] 松崎	講義・演習	事前に Power Point を提示するので目を通しておく。 事後のリアクションペーパーに取り組み、提出する。	2
2	違う国に住んでいる同じ民族の呼び方の違いを通し韓国を知る。近隣国中国で暮らすいわゆる「朝鮮族」の移住、言語・文化の差異を画像、動画などを通し理解する。授業では意見交換、学生からの質問とそのフィードバックから理解を深める。	[担当] 成	講義・演習	講義ノートを整理する。 次回クラスのテーマについて調べる。	4
3	日本文化と比較しながら、画像、音楽、動画を通し韓国文化を理解する。授業では意見交換、学生からの質問とそのフィードバックから理解を深める。	[担当] 成	講義・演習	講義ノートを整理する。 次回クラスのテーマについて調べる。	4
4	チェスや将棋の体験を通して歴史や文化を学び理解を深める。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行う。	[担当] スター ジョン	講義・演習	講義ノートを整理する。 次回クラスのテーマについて調べる。	4
5	多種多様な人種が混在しているアメリカの実際を学び関連する諸問題や課題について考える。授業では学生からの質問に対しフィードバックを行い、活発な意見交換の場を提供する。	[担当] スター ジョン	講義・演習	講義ノートを整理する。 次回クラスのテーマについて調べる。	4
6	研究とは何か、比較研究とは何か、文化と文明はどのような異同関係にあるか、比較文化論としてはどのようなものがあるか、東洋と西洋の異同等を学ぶ。	[担当] 松崎	講義	事前に Power Point を提示するので目を通しておく。 事後のリアクションペーパーに取り組み、提出する。	4
7	比較文明論とは何か、現存七大文明の対比的特徴(大西亜・南亜・東亜)を学ぶ。	[担当] 松崎	講義	事前に Power Point を提示するので目を通しておく。 事後のリアクションペーパーに取り組み、提出する。	4

【2024 年度/総合基礎科目領域/人間基礎科目群】

8	現存七大文明の対比的特徴（欧日露米）を学ぶ。	[担当] 松崎	講義	事前に Power Point を提示するので目を通しておく。 事後のリアクションペーパーに取組み、提出する。	4		
試	期末考査は行わない（達成度評価・評価のポイントを参照）。						
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	0	0	0	100	100
総合力指標	知識・技術力	0	0	0	0	10	10
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	20	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	10	10
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	10	10
	コミュニケーション力	0	0	0	0	10	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	20	20
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	20	20
評価のポイント						フィードバックの方法	
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	毎回各教員がリアクションペーパー（RP）または課題等の提出を求め、各受講生の理解力・課題発見解決力・思考力・記述力等を評価する。 配点は1回12.5点相当。よって2回担当者は25点分、4回担当者は50点分を採点評価する（25+25+50=100点）。			講義中、または Teams で総評を行う。	
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	成 昌 燮、ジェイソン・ディーン・スタージョン。						
教員の実務経験	なし。						
実践的授業の内容	なし。						
そ の 他	1. 教室授業であるが、リアクションペーパーなどは Teams を用いてやり取りする。他に課題ダウンロード、DVD鑑賞などを行うこともありうるので、通信容量無制限の Wi-Fi 環境を奨励する。 2. 新型コロナウイルス感染症等社会情勢によっては、再度シラバスの変更が行われることもある。						